

歎異抄 第一章

【現代語訳】

弥陀の誓願不思議にたす
けられまゐらせて、往生を
ばとぐるなりと信じて念仏
申さんとおもひたつところ
のおこるとき、すなはち
摂取不捨の利益にあづけし
めたまふなり。

阿弥陀仏の誓願の不思議なはたら
きにお救いいただいて、必ず浄土に
往生するのであると信じて、念仏を
称えようという思いがおこるとき、
ただちに阿弥陀仏は、その光明の中
に摂め取って決して捨てないという
利益をお与えくださるのです。

弥陀の本願には、老少・
善悪のひとをえらばれず、
ただ信心を要とすとしるべ
し。そのゆゑは、罪悪深重
煩惱熾盛の衆生をたすけん
がための願にまします。

阿弥陀仏の本願は、若いも若きも
善人も悪人もわけへだてなさいませ
ん。ただ、その本願を聞きひらく信
心がかなめであると心得なければな
りません。なぜなら、深く重い罪を
持ち、激しい煩惱をかかえて生きる
ものを救おうとしておこされた願
いだからです。

しかれば、本願を信ぜん
には、他の善も要にあらず、
念仏にまさるべき善なきゆ
ゑに。悪もおそるべから
ず、弥陀の本願をさまたぐ
るほどの悪なきゆゑにと
云々。

ですから、本願を信じるものには、
念仏以外のどんな善もいりません。
念仏よりすぐれた善はないからで
す。また、どんな悪もおそれること
はありません。阿弥陀仏の本願をさ
またげるほどの悪はないからです
と、聖人は仰せになりました。